# 校務用Mac導入ガイド

## 次世代校務DXの実現に向けて

2026年11月

# はじめに

このガイドでは、教職員のみなさんの働き方改革を実現するデバイスとして、Macが最適である理由と代表的な導入シナリオを説明しています。

頑丈なボディと長持ちするバッテリー、使いやすくパワフルなmacOS、クラウドベースのツールを安全に利用できる強固なセキュリティ、Appleのエコシステムによるi Padとの連係機能など、Macならではのメリットを活用することで、教職員のみなさんはこれまで以上に効率的かつ柔軟な働き方ができるようになります。

自治体や教育機関の現状や計画に応じて最適なシナリオを選び、次世代校務DXを実現する環境を整えましょう。

# 目次

**1. 校務用デバイスにMacを選ぶ理由 ..... 4**

1-1. 高い機動力と継続性 ..... 4

1-2. パワフルで直感的なmacOS ..... 4

1-3. 導入と管理のしやすさ ..... 5

1-4. 既存システムとの互換性 ..... 5

1-5. セキュリティとプライバシー ..... 5

1-6. 総所有コストを削減 ..... 6

1-7. 教職員のみなさんのモチベーション向上 ..... 6

**2.iPadとの親和性 ..... 7**

**3.導入シナリオ ..... 8**

3-1. シナリオA｜フルクラウド・ゼロトラスト環境 ..... 8

3-2. シナリオB｜共用Windows利用環境 ..... 9

3-3. シナリオC｜ハイブリッド環境 ..... 10

3-4. シナリオ比較 ..... 11

**4.次世代校務DXに向けて ..... 12**

4-1. ロケーションフリー ..... 12

4-2. デバイスの一台化 ..... 12

4-3. データの安全な利活用 ..... 12

**5.Appleのセキュリティ ..... 13**

**6.アフターサポート ..... 14**

**7.よくお問い合わせいただく質問 ..... 15**

**8.導入事例 ..... 16**

岐阜市教育委員会 ..... 16

**関連情報 ..... 18**

# 1. 校務用デバイスにMacを選ぶ理由

校務用デバイスにMacが最適な理由を、7つの観点から紹介します。

## 1-1. 高い機動力と継続性



軽量かつ
丈夫なデザイン

スリープから
すばやく復帰

一日中使える
バッテリー

Macは驚くほど薄くて軽く、学校現場での使用を念頭に頑丈に設計されています。MacBook NeoとMacBook Air[1]は1.23kgと軽量なので、どんな場所にも持ち運んで業務に活用できます。パワフルなAppleシリコンにより、様々なタスクをすばやく行えるだけでなく、スリープ状態から一瞬で復帰するので、授業の間や移動中などのわずかな時間も効率的に使えます。また、一回の充電で一日中使えるバッテリーを備えているため、朝の授業から放課後の職員会議まで電源につなぐ必要がなく、より柔軟な働き方が可能になります[2]。Apple製デバイスには、バッテリーの老化を抑えられるようバッテリー充電の最適化機能が組み込まれており、長期的なデバイス利用においても高いパフォーマンスを維持します。

## 1-2. パワフルで直感的なmacOS

MacをはじめとするApple製デバイスは、ハードウェアとソフトウェアが一体となって力を発揮するよう設計されています。Macの基盤となるmacOSでは、様々な作業を簡単かつ直感的に行えます。以下のような機能を活用することで毎日の校務を効率化できます。

| | | |
|---|---|---|
|  | Touch ID | スリープから復帰する際や、システムへのログイン時にキーボードからパスワードを入力しなくても、指先ひとつですばやく認証できます。 |
|  | クイックルック | アプリを開かなくても、スペースキーを押すだけでファイルのプレビューを確認できます。 |
|  | Spotlight | 入力した内容に関連するファイルやアプリ、Eメール、インターネット上の情報などを横断的に検索して、目的の項目を瞬時に見つけられます。 |
|  | Multi-Touch<br>ジェスチャー | ページやアプリの切り替え、画面の拡大縮小など様々な操作を、トラックパッド上で指先だけで実行できます。 |

## 1-3. 導入と管理のしやすさ




MacはiPadと同様に、MDM（Apple School Managerとモバイルデバイス管理サービス（MDM）ソリューションを活用したゼロタッチ導入が可能です。Windows環境で一般的な「マスターイメージの作成」や「キッティング作業」といった複雑な準備作業の必要なくから解放され、Apple School Manager（ASM）と連携することで、端末が届いた瞬間から自動的に設定が適用されます。Microsoft 365（A3／A5ライセンス）に含まれるIntune for EducationもmacOSデバイスに対応しているため、既に同環境を利用している場合でもスムーズに導入できます。

| | |
|---|---|
| ゼロタッチ導入 | IT担当者がデバイスに触れることなく、ユーザーが箱から出して電源を入れるだけで設定を完了できます。 |
| 一元管理 | iPadと同じ基盤でセキュリティポリシーを適用できます。 |
| 紛失対策 | デバイスを紛失しても、遠隔でロックやデータ消去ができます。 |
| 遠隔での<br>OSアップデート | デバイスがどこにあっても、管理者が一括して遠隔でOSのアップデートを適用できます。 |

## 1-4. 既存システムとの互換性

Microsoft OfficeおよびGoogle Workspaceは、いずれもネイティブアプリやブラウザ上でWindowsと同等か、それ以上に軽快に動作します。その他のクラウドベースの校務支援システムも利用可能です。

## 1-5. セキュリティとプライバシー

Macは、設計時から安全性を考慮して作られています。ハードウェアとOSレベルで高度なセキュリティ機能が組み込まれているので、他社製のツールを追加することなくセキュリティを強化できます。また、Apple School Manager、管理対象Apple Accountなど、Appleの製品やサービスにはプライバシーを守る機能も組み込まれているので、生徒や教職員のみなさんの個人情報や、教育機関のデータを安全に保護することができます。
詳しくは、5. Appleのセキュリティをご覧ください。

## 1-6. 総所有コストを削減

より長い製品サイクル
Apple製品に切り替えた場合[3]



+18.5ヶ月

4年後の残存価値[3]



25%

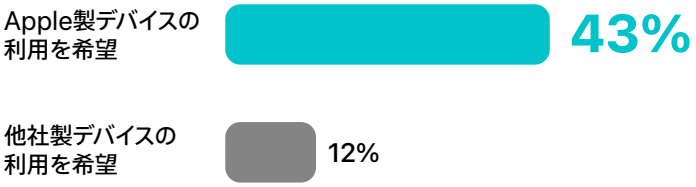
デバイス管理業務の効率向上[3]



35%

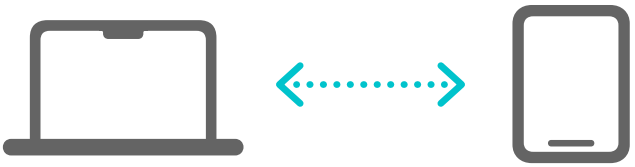
校務用デバイスは、本体の購入価格だけでなく、保守やサポートコスト、アプリの購入費、処分にかかる費用などを考慮した総所有コスト（TCO）で評価することが重要です。Macは丈夫で、高品質な素材で作られており、無料のOSアップデートが継続的に提供されるので長く使い続けることができます。校務や授業に役立つApple製アプリを無料で利用できるだけでなく、デバイスの信頼性が高く故障率が低いためサポートコストを抑えることができます。また、役目を終えたあとに譲渡や廃棄処分される他社製デバイスとは異なり、高い残存価値を利用して下取りに出すこともできます。

## 1-7. 教職員のみなさんのモチベーション向上




アジア太平洋地域の小中高等学校の教師のみなさんを対象に2026年5月に行われた調査では、43%の回答者がApple製デバイスの利用を望むと答えました[4]。これは、他社製デバイスを望むと回答された割合の12%を31ポイントも上回っており、多くの教育者のみなさんがApple製デバイスを希望していることが示されています。また、米国で行われた別の調査では、回答者の60%がMacを利用する選択肢を組織に望んでいるほか、Macの利用をサポートしている企業では、そうでない企業と比較して従業員の満足度が大幅に高くなっていることが明らかになっています[5]。

# 2. iPadとの親和性



すでにiPadを利用している自治体や教育機関は、校務用デバイスとしてMacを導入することで、Apple製品のパワフルなエコシステムを活用できるようになります。以下のようなアプリや機能を日々の校務に取り入れて、効率的に校務を進めましょう。データの共有機能などは、組織のセキュリティポリシーに応じてデバイス管理サービスから柔軟にコントロールできます。

| | |
|---|---|
| Apple製アプリ | Pages、Numbers、Keynoteといった校務の生産性を向上させるツールから、iMovieなどのクリエイティブなツールまで、様々なアプリが無料で利用できます。多くのアプリがiPadと共通しているので、Macで作成したファイルをiPadに配布したり、生徒がiPadで作成したファイルをMacで確認することも簡単です。 |
| AirDrop | MacとiPad間など、近くにあるApple製デバイス同士で、ファイルや写真などのデータをすばやく簡単に共有できます。共有のために手動でクラウドにアップする必要がなくなります。 |
| iCloudでの共有 | 管理対象Apple Accountを使用すると、iCloud Drive内のデータにどのデバイスからでもアクセスできるようになります。iCloud写真をオンにすると、iPadで撮影した写真やビデオのライブラリが自動で同期されるので、Macからシームレスに開いて利用できます。 |
| ユニバーサル<br>クリップボード | 一方のApple製デバイスでコピーしたテキスト、写真、ビデオなどのデータを、別のデバイスでペーストできます。 |
| 写真やスケッチの挿入 | Macで編集している書類やプレゼンテーション内の任意の位置に、連係しているiPadのカメラで撮った写真や、手描きのスケッチをすばやく挿入できます。 |
| 連係マークアップ | Mac上の書類をiPadに表示させて、Apple Pencilなどを使って手書きで直接マークアップできます。 |
| Sidecar | iPadをMacの2台目のディスプレイとして使って作業効率を向上できます。 |
| ユニバーサル<br>コントロール | 1つのマウスやトラックパッド、キーボードを使って、MacとiPadをシームレスに操作できます。 |

# 3. 導入シナリオ

教育機関の現状と計画に応じて、最適な導入シナリオを柔軟に選択できます。
ここでは代表的な3つのシナリオを紹介します。

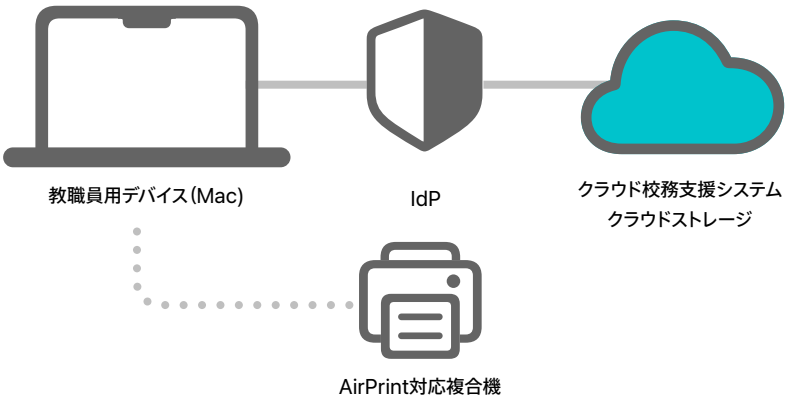
## 3-1. シナリオA｜フルクラウド・ゼロトラスト環境



対象：校務システムがクラウド化済みの環境
1台のMacで校務も授業準備も完結し、ロケーションフリー化を実現できる、次世代校務DXのゴールとなる環境です。

### シナリオAの主要製品構成

- Mac
- クラウド校務支援システム
- デバイス管理サービス
- ゼロトラストネットワーク
- IDプロバイダ
- エンドポイントセキュリティ
- Webフィルタリング
- AirPrint対応複合機



## 3-2. シナリオB｜共用Windows利用環境



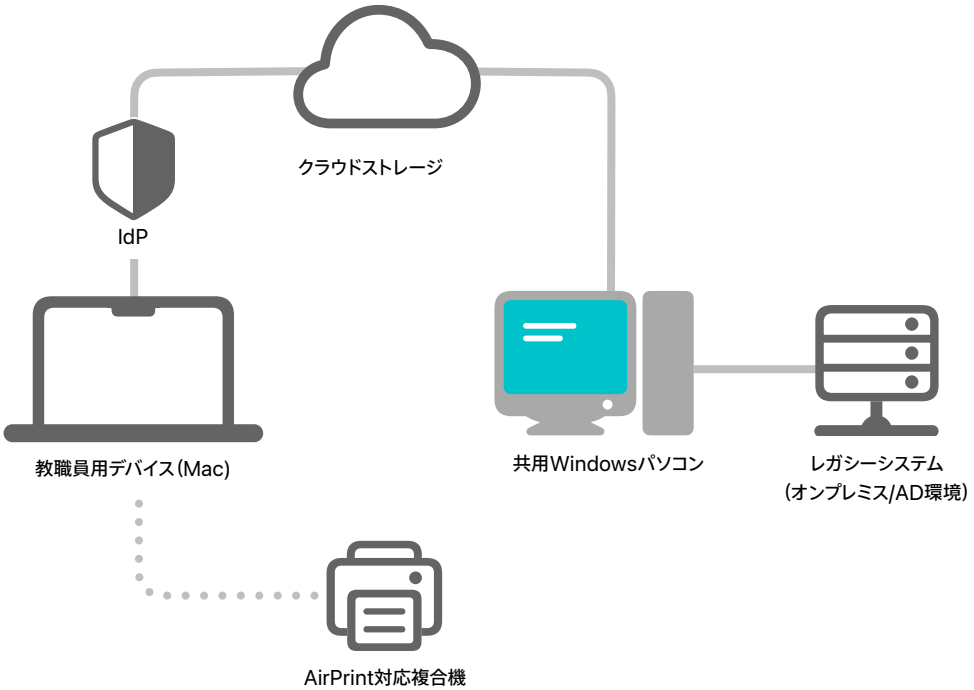
対象 : 教職員のデバイス体験を改善しながら、大規模なシステム更新を抑えたい環境
日常業務にMacを利用し、教職員のみなさんの働き方の自由度を向上させます。レガシー環境が必要な業務には、共用のWindowsパソコンを利用しつつ、シナリオAまたはCへの早期の移行を目指します。

### シナリオBの主要製品構成

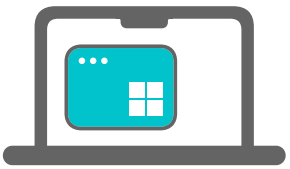
- Mac
- 共用Windowsパソコン

シナリオBの補完ツール

- ファイル共有 :
  GoogleやMicrosoft基盤とのファイル共有に利用するクラウドストレージ
- 印刷 :
  AirPrint対応の複合機（現状がAirPrint非対応の複合機を利用している場合）
- ネットワーク :
  クラウドIdP経由のAD連携。ADドメイン参加は不要。



## 3-3. シナリオC｜ハイブリッド環境



対象：校務の一部にWindows専用アプリケーションを利用している環境
Macのメリットを活用しながら、必要時のみMac上の仮想Windows環境で専用アプリケーションを利用します。

### シナリオCの主要製品構成

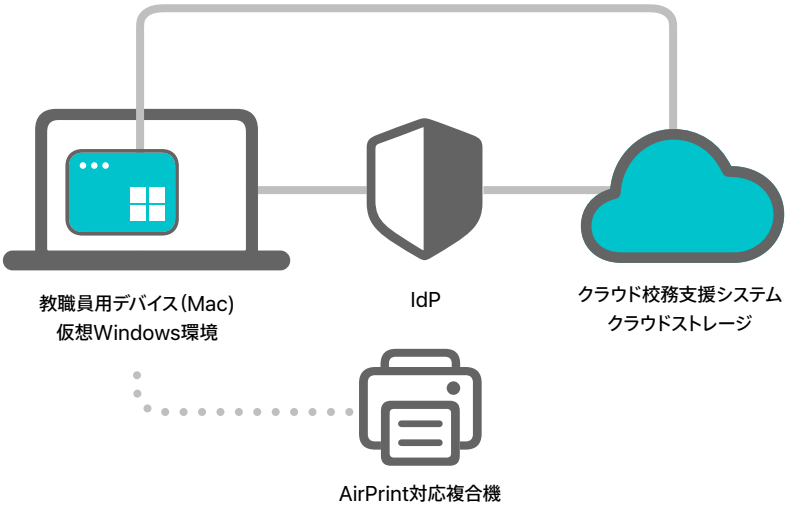
- Mac（16GB以上のメモリを搭載したモデルを推奨）
- クラウド校務支援システム
- IDプロバイダ
- 仮想化ソフトウェア
- AirPrint対応複合機

### 仮想化ソフトウェア例

- Parallels Desktop for Mac法人版
- Windows 365
- Azure Virtual Desktop
- VMware Fusion Pro

### Macでの対応例

- 一太郎：
  仮想Windows環境、または共有Windowsパソコンへのリモートデスクトップ接続で対応可能です。
- ATOK：
  ATOK Passportサブスクリプションにより macOS版を利用可能です。
- UDデジタル教科書体：
  Microsoft 365アプリで利用可能です。そのほか、Macでは教科書体以外のUDフォントが標準で利用できます。



## 3-4. シナリオ比較

どのシナリオからDX化を目指しても、Macは教職員のみなさんの働き方を変革し、最高のパフォーマンスを引き出します。

| | シナリオA | シナリオB | シナリオC |
|---|---|---|---|
| |  |  |  |
| クラウド移行 | ★★★ | ★ | ★★ |
| レガシー環境 | 利用なし | 共用パソコン併用 | 仮想化で対応 |
| 働き方の自由度 | ★★★ | ★ | ★★ |

教育現場のICT環境は自治体や学校によって様々ですが、「現状のシステムがMacに対応できるか」という懸念から導入を先送りする必要はありません。Macは極めて柔軟性が高く、現在のネットワーク環境や校務システムのクラウド化の進度に合わせて、最適な形で導入し、教職員のみなさんの働き方を確実にアップデートできます。

**シナリオA：フルクラウド環境の場合**

すでにクラウド校務支援システムを利用している環境では、Macは最もスムーズに導入でき、最大の効果を発揮します。MacはOS標準で強力な暗号化（FileVault）やマルウェア対策（XProtect）を備えており、ゼロトラストネットワークへの接続要件をネイティブに満たしています。Apple School ManagerとMDMを組み合わせたゼロタッチ導入により、IT担当者の負担を最小限に抑えながら、教職員のみなさんにセキュアなロケーションフリー環境を即座に提供できます。

**シナリオB：共用Windows利用環境の場合**

オンプレミスのレガシーシステムが残っておりシステム全体のクラウド化に時間がかかる過渡期の環境であっても、Macを導入し、そのメリットを活用できます。日常的な授業準備や事務作業を行う個人用デバイスをMacに置き換えるだけで、教職員のみなさんの働き方の自由度は大きく向上します。レガシーシステムを必要とする特定の業務にのみ共用Windowsパソコンを使用し、Macとのデータ連携はクラウドストレージ（GoogleやMicrosoft基盤）を介して行います。これにより、業務のスムーズさを保ちながら、将来的なシナリオA・Cへの段階的な移行（DX化）を安全に進めることができます。

**シナリオC：ハイブリッド環境の場合**

校務の一部にどうしても手放せないWindows専用アプリがある場合でも問題ありません。Appleシリコンを搭載したパワフルなMac（16GBメモリ推奨）なら、Parallels Desktopなどの仮想化ソフトウェアや、Windows 365などのクラウドPCを組み合わせることで、Windows専用アプリを極めて軽快に利用できます。日常業務では、Macの直感的な操作性やiPadとのシームレスな連係といったメリットをフルに活用しながら、必要な時だけWindows環境を呼び出すというハイブリッドなワークフローを実現できます。

どのような教育機関の環境でも、現状のシステムの完全な移行を待つ必要はありません。組織の現状に合わせたシナリオでMacを導入することで、次世代の校務DXをスタートさせることができます。

# 4. 次世代校務DXに向けて

文部科学省が示す次世代校務DXの方向性に、Macは完全に合致しています。Macが備える強固なセキュリティやクラウド環境との親和性の高さにより、教職員のみなさんはより柔軟かつ効率的に業務を進めることができます。

## 4-1. ロケーションフリー

Appleのプラットフォームはセキュリティを核に設計されており、ハードウェア、ソフトウェア、サービスが連係することで最高レベルの安全性を実現しています。Macはゼロトラストのための強固なエンドポイントセキュリティを標準で備えているため、校務DXに欠かせないクラウド環境へ安全にアクセスできます。これにより、教職員のみなさんは場所や時間にとらわれず、これまで以上に柔軟な働き方を実現できます。

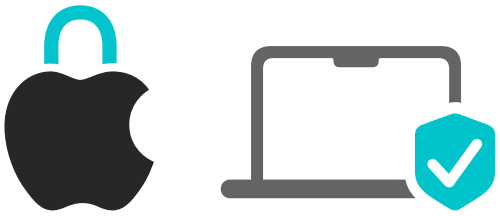
## 4-2. デバイスの一台化

Macは、校務と授業で使用するデバイスを一台にまとめたいというニーズに最適な選択です。MacとiPadは親和性が高いので、授業で使用するプレゼンテーションや課題のワークシートをMacのKeynoteやNumbersで効率よく作成して、そのままiPadに配布することも簡単です。これまでのように校務と授業準備のためのデバイスを使い分ける必要がなくなるので、教職員のみなさんはあらゆる業務をシームレスに行えるようになります。

## 4-3. データの安全な利活用

Macは、教師のみなさんが毎日のワークフローでAIのパワーを活用できるよう設計されています。他社製のオンデバイスAIソリューションもパワフルにこなせるため、生徒や教育機関のデータを安全に有効活用して、高度な分析や評価を行うこともできます。また、macOSに組み込まれたApple Intelligenceを使えば、生徒のプライバシーや教育機関のセキュリティを安全に保ったまま、校務をさらに効率的に行えます[6]。Eメールの確認や返信といった日常的なタスクから、教材の準備、保護者へ連絡するための文章の作成、職員会議の要約まで様々な業務に活用できます。

# 5. Appleのセキュリティ



Appleはセキュリティを重視し、ユーザーや組織のデータを安全に保護できるようデバイスを設計しています。文部科学省が「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」で示しているセキュリティ要件の多くを、Macはネイティブに満たしています。

| ガイドライン要件 | Macでの対応 |
|---|---|
| 暗号化 | FileVault（AES-XTS） |
| 暗号化消去 | FileVaultの鍵消去によるボリュームの即時消去 |
| 多要素認証 | アカウント認証とデバイス認証 |
| デバイス管理 | Apple School Manager ＋ 各種MDM |
| マルウェア対策 | XProtect ＋ Gatekeeper ＋ 公証 ＋ サードパーティEDR |
| ログ管理 | Unified Logging System、SIEM連携（EDR経由） |
| クラウドセキュリティ | ISO 27001/27018認証 |

### FileVault（ディスク暗号化）
AES-XTS暗号化アルゴリズムによりディスク全体を保護します。FileVault鍵の消去によるボリュームの即時消去にも対応するほか、MDMによる遠隔での復旧キー管理も可能です。

### XProtect
ウイルスやマルウェアを自動的に検出して削除する内蔵のアンチウイルステクノロジーです。マルウェアの定義ファイルは自動で更新されます。

### Gatekeeper
App Storeまたは認証済み開発者のソフトウェアのみの実行を許可します。

### プライバシーへのコミットメント
Apple School Managerで管理対象Apple Accountとクラス名簿を設定する際、生徒の名前や登録済みのクラスなど最小限のデータのみを読み込みます。管理対象Apple Accountでの運用ではターゲティング広告がブロックされます。

### Webフィルタリング
サードパーティの製品から幅広くお選びいただけます。

# 6. アフターサポート

校務用Macを長期にわたって安心してお使いいただけるよう、Appleではスペシャリストによる総合的なサポートをワンストップで受けられるサービスを用意しています。教育機関向けのプラン「AppleCare for Mac for Teachers」では、校務でMacBook Airを使う教職員のみなさんに5年間のハードウェア保守とITサポートを提供します。

## AppleCare for Mac for Teachers

教育機関における校務用MacBook Airを対象に、以下の充実したサポートを5年間受けられます。

| | |
|---|---|
|  ハードウェア保証 | • MacBook Air本体、付属のケーブル、電源アダプタに対するハードウェア保証<br>• 保持容量が本来の80%未満に劣化したバッテリーの修理・交換サービス<br>• 自然故障に対する修理などのサービス（利用回数の制限なし）<br>• 理由の如何にかかわらず利用できるサービスプール（契約数の4%まで保証） |
|  カスタマーサクセスマネジメント | AppleCare Customer Success Managerが、AppleCareを最大限に活用するお手伝いをします。<br>• 契約開始時のキックオフ会議<br>• 修理に関するエスカレーションマネジメント |
|  ウェブポータル | AppleCare Enterprise Portal（AEP）から、以下を確認できます。<br>• 保証対象デバイスリスト<br>• 修理／サポート／コールセンター履歴レポート<br>• サービスプールの消費数と残数<br>• サポート起票 |
|  電話サポート | 教職員やIT担当者のみなさん、自治体の教育委員会のみなさんが、24時間週7日利用できる無料の専用ダイヤルを設置しています。MacやApple製アプリの使い方、アクセシビリティ機能の設定方法、製品の故障箇所の特定など、様々な質問に電話でお答えします。利用回数の制限はありません。 |
|  ITインシデント | より複雑な問題に対して年1件まで対応し、IT担当者のみなさんをサポートします。 |

AppleCare for Mac for Teachersは、最初のMacBook Air購入日から1年以内に累計200台以上の導入が条件となります。プランの詳細やお見積りについては、Apple正規取扱店、または通信事業者にお問い合わせください。

# 7. よくお問い合わせいただく質問

Macを校務用端末として検討する際によくある質問をまとめました。

## 校務支援システムは使えますか？

クラウド型なら基本的に対応可能です。

> 3-1. シナリオA｜フルクラウド・ゼロトラスト環境

> 3-3. シナリオC｜ハイブリッド環境

## Microsoft Office / Google Workspaceは利用できますか？

Mac版OfficeアプリまたはWeb版で対応可能です。

> 1-4. 既存システムとの互換性

## Windows専用アプリも使用できますか？

仮想化で対応可能です。

> 3-3. シナリオC｜ハイブリッド環境

## デバイス管理サービス(MDM)の導入・運用体制はどうなりますか？

iPad用サービスでMacも管理可能な場合が多いですが、対応の有無はお使いのサービスベンダーに直接ご確認ください。

## ゼロトラスト対応は検討の必須条件となりますか？

段階的移行も可能です。

> 3-2. シナリオB｜共用Windows利用環境

## いま使用しているプリンタはそのまま使えますか？

AirPrint対応機であれば対応可能です。

> 3. 導入シナリオ

## 各自治体の教育委員会や学校法人内のデータ連携に影響はありませんか？

フォーマット変換をする必要はございますが、対応可能です。

## 学習者用端末としてiPadを活用している場合のMac導入メリットは何ですか？

iPadをご利用ならUIやアプリの親和性が高く、Apple製品のエコシステムをよりパワフルに活用できるようになります。

> 2. iPadとの親和性

# 8.導入事例

## 岐阜市教育委員会

全国の自治体ではじめて教職員のみなさんにMacBook Airを配布し、働き方改革と学びの質向上を実現しています。

### 概要

市立小中学校67校、義務教育学校1校、特別支援学校1校が設置されている岐阜市は、GIGAスクール構想の第1期からiPadを採用している自治体です。日々の授業や、校内の様々な活動にiPadを活用することで、子どもたちに最適な学びの環境づくりを進めてきました。そしてGIGAスクール構想第2期を迎えた2025年9月、同市は教職員のみなさんにMacBook Airを配布し、校務用デバイスを従来のWindowsパソコンから刷新しました。

| | |
|---|---|
| **校務用デバイス** | MacBook Air／1,849台 |
| **アフターサポート** | AppleCare for Enterprise |
| **生徒の学習用デバイス** | iPad（Wi-Fi + Cellularモデル）／約28,000台 |
| MDM | Jamf Pro |
| **ネットワーク** | ゼロトラスト型（2025年9月運用開始） |
| **校務支援システム** | クラウドベース（ブラウザ型） |

### 教育理念とデジタル活用の位置づけ

岐阜市の教育大綱では、「学校、家庭、地域の誰もが生命の尊厳を理解し、一人一人が価値ある大切な存在として認め合う教育」が掲げられています。同市では、テクノロジーを従来型授業の工夫や改善のためではなく、教育を基本から変える「OS改革」のためのツールとして活用し、子どもたちの主体的な学びを実現しています。教育長である水川和彦氏は、デジタルの活用について次のように述べています。

**「岐阜市はデジタル立国を目指しているわけではありません。豊かな学びを実現したり、リアルな学びの質を高めたりするためには、デジタルの活用が必須になります。そして、子どもたちがiPadを使っているなら、教師のデバイスは親和性の高いMacの方が良いというのが私の考えです」**

### MacBook選定の理由

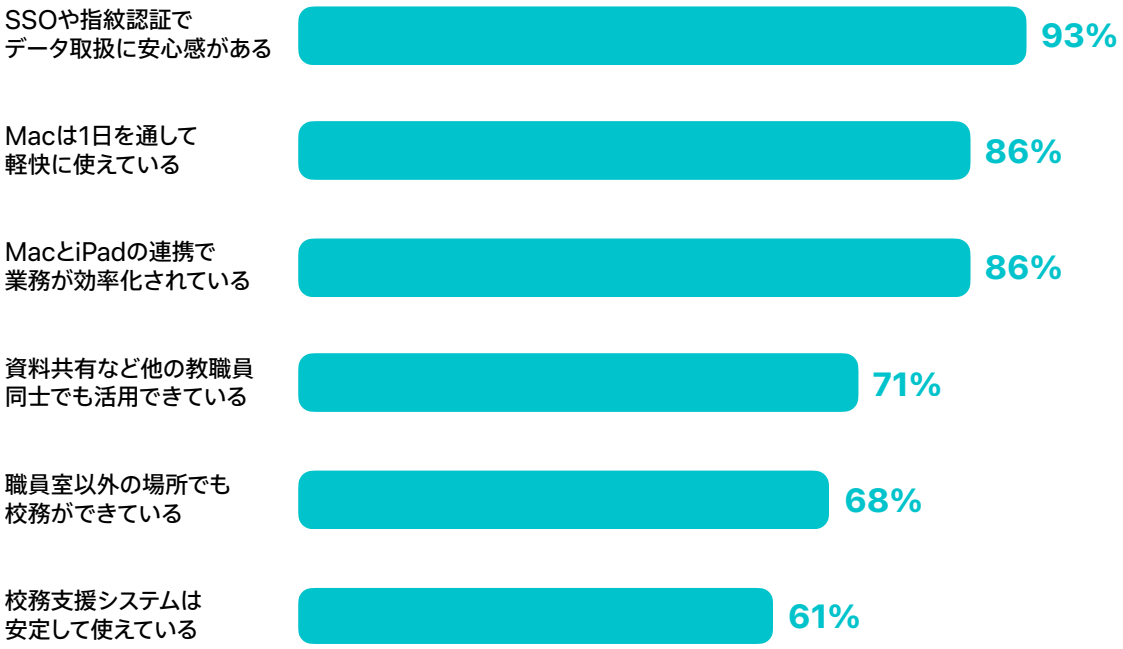
岐阜市では以下の点が決め手となりMacBook Airを導入しました。

- 約3万人の児童生徒が使うiPadとのシームレスな連係
- ハードウェアとソフトウェアの一体設計による高い操作性
- 軽量で頑丈、長時間使えるバッテリーによるロケーションフリーな働き方の実現
- Windowsパソコンと比較した際のトータルコストでの優位性

### 導入後アンケート結果

試験的に昨年度実施した1校の教員28名を対象のアンケートでは以下の結果が得られています。

選択式点数評価




*5段階中、「5:とても当てはまる」「4:当てはまる」の合計

自由記述(複数回答式)

| | | |
|---|---|---|
| 軽快な動作 | 「立ち上がりが早い」「サクサク動く」「待ち時間が減った」 | 9件 |
| 写真共有 | 「iPadで撮った写真がすぐMacで使える」 | 7件 |

### 今後の展望

岐阜市では、今後以下の取り組みが検討されています。

- ビデオを含む学校だよりなど、リッチメディアを活用した情報発信の充実
- Macの授業への活用に関する教員研修
- Apple IntelligenceなどAI機能活用の拡大
- 全市規模での教職員デバイス利用調査の拡大

# 関連情報

GIGAスクール構想をAppleと - 校務とMac

Appleプラットフォームのセキュリティ

教育現場におけるApple製品のプライバシーとセキュリティについて

Apple School Managerユーザガイド

---

初等・中等教育におけるApple製デバイスの総経済効果（Forrester Consulting）（英語）

小中高等学校の教室におけるAppleのテクノロジーの影響（Greater Divide）

Employee Experience and Modern IT（Creative Strategies）（英語）

GIGAスクール構想の下での校務DXについて（文部科学省）

教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（文部科学省）

[1]Apple M5搭載13インチMacBook Airの重量です。重量は構成と製造工程によって異なります。[2]バッテリー駆動時間は使用条件と構成によって異なります。詳しくはapple.com/jp/batteriesをご覧ください。[3]2023年1月に、Appleの委託により独立系調査会社Forrester Consultingが実施した、初等・中等教育におけるApple製デバイスの総経済効果（Total Economic Impact™）に関する調査。生徒数1万人の米国の教育機関と同等規模、同等リソースのモデル組織を用いて実施。[4]小中高等学校の教室におけるAppleのテクノロジーの影響（Greater Divide、2026年）[5]2022年1月26日に公開されたCreative Strategiesの調査「Employee Experience and Modern IT（英語）」（https://creativestrategies.com/employee-experience-and-modern-it/）にもとづきます。[6]Apple Intelligenceはベータ版で利用できます。地域や言語によっては一部の機能を利用できない場合があります。利用できる機能と対応言語、システム条件についてはsupport.apple.com/ja-jp/121115をご覧ください。

© 2026 Apple Inc. All rights reserved. Apple、Appleのロゴ、AirDrop、iPad、iPadOS、Keynote、Macは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。App Store、iCloudは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.のサービスマークです。iOSは米国および他の国におけるCiscoの商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。この文書に記載されているその他の製品名および社名は、各社の商標である可能性があります。2026年11月